

<会員の広場>

「公開講座」のありがたさ

拝師 義勝

「学びたい！！」 齢 50 を過ぎた今、ようやく学ぶ楽しさに目覚めた私である。

1. 意欲の契機について

まず後悔だ。本来の学ぶべき時期に、私はドロップアウトをしてしまった。勉強してどうなる、役に立たん・・・等の自己弁護をし、逃避したのだ。その気になれば、いつでもできるさとタカをくくり、流れのままに来てしまった。日々に流されただけだった。もちろん、現業を通じての「生きた学び」は数多く体感できた。その甲斐もあり、業界 20 余年の経験を活かし、講師として教鞭をとり 5 年。

久々に教科書や参考書に向かいあい、様々な資料を集め (必要に迫られて)、そんな中、さびついてしまった頭が少しずつ活性化してきたのである。そして、スイッチが入った。知的好奇心のようなボタンが ON になった気がする。遅い出発ではあるが、それもまたこのような機会がいただけ、素晴らしい先生方とご縁を賜り、とても幸せだなあと感じている。

2. 受講の経緯について

私は元々、公開講座やシンポジウムに興味があった。恵まれたのは京都在住という環境も大きい。多くの大学がそれぞれに様々な分野のプロの話を、しかもほとんど無料で聴講できるのである。京都の大学が集約されている「キャンパスプラザ」に立ち寄っては、各大学のチラシをチョイスしてきた。のみならず、これまた多くの「寺社」が主催する「暁天講座」にもよく顔を出した。

昔から、「開かれた大学」という文言が大好きであり、そこには前述した「学問コンプレックス」を自覚している。そんな社会人生活を送っていた中、ネットを通じて、大阪教育大学を知ることができた。はじめは併設の放送大学見学のため、大阪教育大学天王寺キャンパスに歩みを向けた。その際、学内の様々な掲示物に目が触れ、大阪教育大学の公開講座のポスターを見つけた。興味を持ち、帰宅し、HP を拝見したところ、夜間大学院も設置されていることを知る。自身が夜間の大学出身であるために、第 2 のセンサーが触発された。まさに「ピン！！」ときたのだ。資料も取り寄せた。こちらについては、経済的な理由が強く、叶うことがなかったが、公開講座も含めて、この「都心」で開催されているというアドバンテージから、大阪教育大学に大いなる関心を持ち始めた。タイミングも良かった。私は自分の講義内でちょうど「エリクソンの発達段階」の一節を担当していた。その内容を知るうち、私自身が「老年期の統合 (もしくは絶望)」に非常に関心を持った。それまで座右の銘ともしていた「・・・壮にして学べば老いて衰えず、老にして学べば死して朽ちず」(佐藤一斎)に通じるものを感じ、洋の東西を問わない真理がある不思議さを胸にもっていた。それで当時の講座パンフレットを見た時に、「これだ！！」と思った。

3. 今回の講座のこと

まずうれしかったのは、やる気のある人が集まっている空気を共有できたことに尽きる。今回は特に垣根が低いアットホームさ、無学な者でもものおじしなくてすむ安心感、まるで「ゼミ」に参加しているような空間が心地よかった。なおかつ各人が実践者の仲間たちであり、生の話が伺える。きれいごとだけではない真摯なる空間。先生の進行が双方向であったおかげもあり、ライブ感にあふれ、疎外感なく充実できた素晴らしさがあった。マスプロ型式にありがちな、「お客さん」的な内容でなかったところが有意義で感動した。これこそが「地域に開かれ、愛され、共に歩む」大学の公開講座の醍醐味だと思う。

今まで参加してきた公開講座は常に満席であり、受講者のほとんどが高齢期の方々であった。これだけ多くの向学心をもつ我が国に光を見る思いだ。

4. 最後に

蛇足ながら、求め、求め続けていれば、想いに近づけていけることを実感した。身体ひとつ、自分をあきらめたくない。こうした大学開放のパワーがひとりの中年男に灯りをともしてくださった。冒頭に記したように、学ぶことから「逃げてきた」自分だからこそわかる。残念ながら、「少にして学べば、壮にして為すことあり」はできなかった。しかし、今から学び続ければ、老いて衰えないのか、果たして死しても朽ちないのだろうか。今からの寿命、わが身を通して、実証していきたいものだと考えている。

人生の「統合化」へと向けて、ひたむきに歩みを続けたいと自分に願っている。

このような省察の時間をいただき、本当にありがとうございました。振り返りました。

注

大阪教育大学 2019 年度公開講座「社会教育職員対象ステップアップ講座 自身の実践から学ぼう、他者の経験から学ぼう」受講者に受講の感想、公開講座・大学開放への思いを記してもらいました。

拝師 義勝 (はいし よしかつ)

北大阪福祉専門学校専任教員・社会福祉士。

大阪教育大学 2019 年度公開講座「社会教育職員対象ステップアップ講座 自身の実践から学ぼう、他者の経験から学ぼう」受講者